

山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（八）

久保田 啓一
蔵本朋依

凡例

- 一 漢字は、常用漢字に含まれるものはそれを用い、他は正字体とした。ただし、「卿」「井」「祇」のように、組版の都合を考慮して俗字を使用した場合がある。また、明らかな誤字は訂正した。
 - 一 平仮名・片仮名については、書き分けに意味があると考えられるため、底本の表記に従うのを原則とした。平仮名の文脈中にあられる「ニ」「ハ」「ミ」もそのままとした。なお、合字の「ヤノ」などは、それぞれ「コト」「シテ」などに開いた。
 - 一 適宜句読点・濁点・半濁点・中黒を補った。
 - 一 漢文の訓点は、明らかな誤りを正した以外は底本のままとし、新たに補うことはしなかった。
 - 一 踊り字は、ゝを「々」とした他は底本通りとした。
 - 一 校訂者による注記は、〈表紙〉のように「〜」で示し、底本に使用される「〜」とは区別した。
 - 一 欄外や行間の補記、割注の類は、〈欄外〉〔○○○○〕・〈傍注〉〔○○○〕・〈割注〉〔○○○○〕のように「」で括り、底本に使用される「」とは区別した。
 - 一 底本の行移りには従わず、内容に応じて適宜改行した。また、改頁を示すことはしなかった。
-
- 一 闕字・台頭・平出の類は無視した。
 - 一 日付・天候の記述から本文に移る形式は冊によって異なり、統一がとられていないが、日付・天候を一字下げで書き始め、本文を続ける形式に統一した。
 - 一 通読と検索の便を考え、各冊の最初と最後には〈第〇冊 表紙〉（以上 第〇冊）と校訂者注記を掲げ、各月の初めには〈文政九年〉のように該当年を注記した。
 - 一 全冊の本文掲載終了後、索引を付す予定である。
- 〈承前〉
- 九月（弘化三年）
- 一日。晴。中村直三郎許の会にまかる。
- 二日〈頭欄〉〔○〕。晴。ひるより後、梅村九兵衛亭にまねかる。画師浮村弥兵衛も来れり。酒肴いで、その興たけなへにおよびて、弥兵衛画をものしたり。おのれうたなどかけり。くれて後かへりて尾崎の産婦のやまひよろしからぬよし聞てとぶらふ。まことや福川の福田長藏家にかへるよしいとま申に來りぬ。此人に寄居歌談十冊つかハす。さいつ比福川の料とて阿武喜平次がたよりありといへるにつけたれど、まだ彼所にいたらぬよしなれば、長藏をやがて喜平二がりよせて歌談をとらせたる也。村田翁違例のよしにて二日三日さきに青木周弼

まかりたり。今朝より山田亦介もゆくと聞て、菓子一箱おくりぬ。

三日。雨、あしたのほどふりてはる。陳書をよみはじむ。尾崎善次郎が妻、産後のなやみにて身まかりぬ。

四日。晴。尾崎がりくやみにまかりぬ。司より退きて弘正方と大江家のうたども部類し、くれて後當園をとふ。

五日。うすぐもりせり。けふあす春日の祭也。司にのぼらず。ひるより後中村半右工門が亭にまかりぬ。くれて後、静間が亭にまるとして歌よむ。

六日。晴。南齊書の抄出をへる。

七日。晴。

八日。晴。未の時より藤田仙之介が亭にまかりて、万葉四ノ上巻の部類をへる。

九日。晴。今日重陽の御礼御帳あれども、足疾にかこちてまうのぼらず。

十日。晴。刑部殿の会にまかる。役中ハひるのほどいそがしければ、夜来るべきよし命ぜらる。くれて後、二森のまつり、大庭が亭へ行。

十一日。雨風。けふハ神器陣菊が浜にて行へるべきよしにて、夜の内より狼煙などうちあぐるおとおどろくしかりつるに、雨風になりぬ。いかゞあらん、事なれりや、ならざるや。

十二日。ことなることなし。

十三日。くもれり。ことなることなし。夜にいらて月はれたれど、いづこにもこよひの会なし。いとさうぐし。

十四日。晴。をりくうちしぐる。尾崎が亭にて三田尻の定助といふ骨董にあふ。夜にいらて刑部殿の会にまかる。かへさに新やを訪らひて、在郷なる定次郎が兄の出府したるにあひて、時ばかり物かたらひてかへりぬ。いたく更たり。

十五日。晴。陳書の拔萃をハリぬ。

十六日。晴。

十七日。晴。

十八日。晴。くれて後雨うちそぐ。

十九日。くもりみはれミ定めなし。申時ばかりより勝間田が許に冷泉・静間など共にゆく。夜ふけてかへりぬ。

廿日。ことなることなし。天気いとよし。

廿一日。ことなることなし。

廿二日。晴。ことなることなし。

廿三日。晴。井上源右工門死去。

廿四日。晴。ことなることなし。

廿五日。晴。ことなることなし。

廿六日。晴。夕がた風雨はげし。上野の津田某が亭にて岡本引受の会あるにまかりぬ。こよひ井上源右工門葬式、内の焼香にまかりぬ。

廿七日。晴。

廿八日。朝のほどいさゝかしぐれふる。国司の会にまかる。

廿九日。いとよく晴たり。

晦日。いとよく晴たり。

十月（弘化三年）

一日。よきてけなり。きのふけふ仰徳大明神のミまつりゆゑに出仕せず。夕がたより雨ふり出ぬ。

二日。はれて風寒し。河添近藤の法事に菓子料として銀六匁つかハす。井上源右工門初度の法事に焼香にまかりつ。

三日。ことなることなし。風はげしく雨ふる。

四日。ことなることなし。同じ空のけしき也。

五日。晴。

六日。晴。

七日。雨。

八日。晴。くれて雨ふる。尾崎善次郎がつまの三十五日にまねかれてまかる。

九日。をりくしぐる。

十日より十七日まで事おほくて日記えかゝず。

十八日。夕かけてしぐれたり。

十九日。晴。けふ大阪の秋田や太右エ門、広島島の末田正勝のふたり来れるよし、山城やよりいひこせたり。やがて正勝きたれり。菓子また肴代などおくりものあり。秋田やよりそばの粉をおくれり。

廿日。雨。井筒や・秋田やのやどへまかる。

廿一日。はれくもりて空さだめなし。こよひ秋田や・井筒やの二人を山城屋にもなひ来るべくはかりて、くるゝ比より小酌を催せり。みな人々夜ふけてあかれぬ。井上与市自長に來る。

廿二日。晴。

廿三日。晴。

廿四日。風はげしくて雨をりゝふる。こよひ井筒や・秋田やの二人を静間が亭に招く。おのれもまかりぬ。

廿五日。雨。夜にいりて山城やにまかる。さるハ井筒やが子、痘の催しなる由にて広しまより人來たりければ、あす帰るべきいそぎするによりて、馬のはなむけのまとゐ、山城やいとなめばなり。歌談百冊代二百二十目、井筒やにわたしつ。

廿六日。晴。父君いさゝか心ちあしきよし告來る。その便りに砂糖二斤おくる。

廿七日。晴。

廿八日。かみおどろしくなりて雨ふる。あすより父君のとぶらひにかへるべきよし、司にまうす。父きみいたくわづらひ給ふよし聞て、とぶらひに岩淵にまからんとて、そのよし司の人々にかたらひおきて、十月廿九の朝、巳の時ばかりに出たちぬ。風いと寒し。佐々並ちかき山道をゆくに、あらましく吹おと道松にひゞきて、ものおそろしき空のけしき也。

松のはのえだながらさへをれてちる風ものすこし山かげのミチたそがれのほどに山口につきて、松田嶺丸が亭にやどりぬ。嶺丸の父播磨守久しくやみふしたりけるが、さいつこる身まかりにけり。そ

のなげきのうた、

はしり出の そともに見ゆる 山の名の 亀にもあらず おやの
世ゆ うけつぎ來つる 家の名の 松にもあえて ほとゞぎす
音になく比の さみだれの 雨そほつ夜に はかもなく 過まし
にきと 玉づさの 人のいへるを 聞まゝに かなしくなりぬ
われすらも かくかなしきを はしきやし その子のぬしハ
かばかり ひづちなくらん しかれども これぞすべなき うつ
せみの 世のことわりと おふなく おもひなしても 今より
ハ ミたまのまつり 万代に こゞしと守れ 山の名いへの名
いづくとかしりてたづねんほとゞぎすなくやさ月の玉のゆくへを

十一月（弘化三年）

ついたちの日。あさよりかきくもりておぼつかなき空のけしき也。
あるじ、今日ばかりハとせちにとゞむ。きのふの山ミちに足をそこな
ひて立くるしければ、さらバあすたち侍らんととゞまりつ。佐甲
久香とひ来て歌よまんといふ。しかるべしとて探題いたしけるに、寒
芦をえたり。

枯てしもこほりのうへにふすあしハなほミがくれぬふしを見せ
けり

ふつかの日。佐甲久香をみて出たちぬ。問田の里くるほど、にハか
にかきくらし雪いミじうふる。うち払ひつゝ、くれんとする比岩淵
につきて、父君にあひて、わづらひそめ給ひしほどの事よりこのころ
のさまなどまできくに、さしてこゝハとおぼゆるいたみもなけれど、
たゞ物たうぶる事のいとくるしくてのどをこえぬなん常ニことなる、
隔とかいふ病にやあらんとのたまふ。こよひハ久香とゞもにうち臥し
ぬ。

三日の日。てけなほれり。朝とく上田光美訪ひ來たり。久香ハ午時
ばかりに大道にゆきぬ。おのれも申時過るころ大道にゆきて上田氏を

訪ひぬ。

四日もてけよし。三田尻の秋本岱寿ハこのわたりの医博士なり。この人をむかへんと、おのれミづから朝まだきに出たちてまかりたりけれど、久しくやまひに臥てかどのとも出侍らねバ、こなたに來たらせ給ハゞ診察もし侍らんといふ。かへりて云々のよしいひけるに、さらバまかるべしとて、

五日の日。空のけしきものどかにて風さへなけれバいとよき日なりとて、行て見せ給へるに、粘液より起れる隔症なり。ゆゝしき大事也といへりとぞ。

六日。晴。けふより岱寿がくすりをのミ給ふ。おのれハ上田にて久香と共に延齡松の詩歌をえらぶ。さるハ、さいつとしかの松の詩歌集板にゑらせけるに、その後また數おほくあつまりたるを後集としてすり巻にせんとて也。父君のやまひにこゝちまどひたるほどなれど、延齡といふ名の時にとりて事よくおほゆるまゝに、つとめて物しつ。こよひ久香・室丸と共に歌よむ。炉火を、

あとたえてとふ人もなき雪のよハうづミ火のミぞおもふ友なる
うづもれし身のたくひともいふべきハはいのしたなるおもひなりけり

七日。朝また上田にまかりぬ。堂山のいつくしま社、過しとしこぼち（左傍記）「こぼちカ」のぞかるべかりけるに、殊なる仰事にてことし帳内卜定められけるを、ことぶきてよめる、

たてかへしけふのたふとき宮柱御代のめぐミを石ずゑにして
けふも延齡松の詩歌をえらぶ。すくなくて一とちとハなしがたし。

八日。晴。久香、山口にかへる。おのれも三田尻のかたにまかりぬ。左野のたうげをこゆとて、西の浦のかたをながめて、

木がらしハ波にひゞけどもしほやく浦のけぶりに冬枯もなし
こよひハ荒瀬安船が亭にやどる。

九日。晴。弘正方が亭をとふ。けふハ荒瀬真繩が亭にまねかる。真繩、養子まうけたるよろこびとてまらうとあまた招きたり。

十日。晴。夕つけて宮市にまかりて小倉が亭にやどる。矢野括山がかける画に賛をこふ。

こハいつのふでのすさびと打むかひとへどこゑなきうたハかひなし

括山ハこそミまかれり。

十一日。晴。朝とく天満宮にまうでゝ心願をのぶ。上司主税といふくすし、少彦名神の画像をもて来て賛をこふ。

日の本にのりてかへりし神の舟これぞくすしのかゞミなりける
たそがればかりに岩淵にかへる。父君きのふけふ心ちよろしから

ず。岱寿がくすりもその驗見へず。大道なる中島礼蔵、わかきくすしなれどさかしき者なれば、むかへてかたらハんとてよびにつかハしつ。

十二日。晴。中島朝とく來れり。山野室丸・内田仙介なども來る。中島くすりののんどこえかぬるよしを聞て灌腸したるに、久しくくだらざりしものどもいたく出て、はらのうちやゝくつろげりとなん。

十三日。晴。小郡にまかる。石見の岸本左一郎といふ碁打、五段の位にゐる人なるが、久しくこゝにゐて所の人々に碁をしふ。しかるに

この比、井上因碩といふ江戸の碁博士、八段なるが、長崎にくだるとて來やどれり。堀部方策もこの人にともなひてこゝまで來れり。小郡

ハむかしより碁の行ハるゝ所にて、秋本・長井・品川などミなつどひてうちあらそふよし聞て、めづらしき事なれば見にまかりぬるに、長

井やがて出むかへて、をしいかな、きのふきまさずて、大國手と岸本の手合ハ既ニをハリたり、されども世になだかき人なればまづ対面

し給へとて、おのれをいざなひて因碩にあハせつ。人がらいとふつゝかにさとびて、更に物の上手などいふべきさまならず。おのれ心のうち

に、
とをはたとかぞふるつらぬけ出てきみひとりこの道やきハめし

とよミしかバ、たにざくにかきてつかハさまほしかりしかど、歌など聞しるべきおもゝちもななれば、そのまゝにてやどりにかへりつ。や

どりハ長井が亭也。

十四日。晴。因碩ハ朝とくたちぬ。左一郎・方策、おのれに見せんとてうてり。巳の時ばかりに手合して夜半までうちて九十目にてとゞめつ。

十五日。つとめてより打はじめて未の時ばかりに百目あまりになりぬ。はつるまで見まほしけれど、あすより萩にかへるべくおもひ定めたれば、病者にもいとまごひせんと、夜ふけてハあしかれバとて岩淵にかへりつ。過し日、因碩と左一郎と打たるを見ざりしハくちをしけれど、方策も三段の碁なれば、このつがひはた世に多かるべきにあらずかし。

十六日。西念寺に応永卅二年につくれる仏あまたおハしますを、山田公章かねて一軀えまほしがりておのれにはかりけれど、何くれとさへる事ありて、これまでいかにもえせざりし事をおもひ出て、宮原庄兵衛をともしなひてまうでけるに、住持の僧、里にいでたるほどなりけり。あるじなき所に入て仏とり出んハうしろめたきわざともおもひつれど、山田が望もせちなれば、かなへつかはさまほしくてぬすみてかへるとて、かべにかきつけゝるうた、

後の世の火の波ミづの波よりも今身にかゝるしら波ぞうき

上田翁、李白の形したる石を出してこれがうたをとこハる、

今もなほ心のあかハ石ほとけなさけにゑひしむかしうた人

十七日。晴。ひる過る比より出たちて、山口佐甲織之介が亭までかへりつきぬ。松田嶺丸ハつくしにまかりて留守ばかり也。

十八日。晴。午時ばかり萩にかへりつきぬ。足のなやミくるしければ、けふあすハつかさにもまうのぼらじと定めて、寄居にひとりをり。

十九日。晴。ことなることなし。

廿日。くもれり。けふより司にまうのぼる。

廿一日。晴。松岡孫九郎が亭の会にゆきぬ。

廿二日。雨。

廿三日。風寒くなりて雨をりくうちふる。けふより仰徳廟の臨時

祭也。さるによりて司に出ず。

廿四日。朝より風あれ雨ふる。けふも御祭なれば司に出ず。青木周彌、松岡良哉が父君の病にしかるべき薬の法をかけるを、尾崎五左エ門が便に田舎へおくる。また煙草一箱、秋本岱寿へ練翁の書一軸を上田氏へおくる。

廿五日。くもりて雨ふらず、寒さはげし。こよひ椿園の会也。

廿六日。晴。をりくあられふる。石州大田の幸田三四郎といふより、大和素麵一箱おくりて歌の点をこふ。やがて事をへて永富よりかれがもとへかへしつ。飯田重兵衛といふ者のもとより、豊後より文おこせつ〔割注〕〔杵築の人なるべし〕。

廿七日。天気わるし。

廿八日。けふもわるし。

廿九日。佐甲久香来る。風雨なり。

晦日。空のけしきやなほれり。

十二月〔弘化三年〕

一日。晴。殿様いさかななる風にわづらハせ給ふよしにて、けふハ御目見御帳になれり。故にまうのぼらず。あす佐甲久香山口にかへるよしいへるにつけて、岩淵へ札銀一貫目おくりつ。また掌中健球を三田尻の荒瀬がりつかハしつ。

二日。夜のうちより雨ふり出て朝はれたり。

三日。

四日。

五日。

六日。

七日。

八日。ことなることなし。てけもよし。

九日。夜のうちより雨ふり出たり。四方の山ハ雪と見ゆ。こよひ松岡良哉がもとの書物頼母子にまかりぬ。こん年の七月の孔子ハおのれ

にあたりぬ。

十日。風寒し。城戸千楯がミまかれるとぶらひ、何くれとさハる事
どものありてほどへにけるをおもひ出て、高橋主計がミやこにのぼる
にあつらへて紙十帖つかハす。

十一日。てけよし。永富より菓子一箱在郷へつかハしくれよとあつ
らへたるによりて、高橋がたよりニつかハしつ。こよひ大田嘉七がも
との餅搗にまかりぬ。

十二日。晴。

十三日。晴。広島へ野村的休がうたなほしてかへす。吉田御墓もり
のたより也。

十四日。雨。

十五日。晴。丹後殿の亭に御煤除としてならせ給へり。こよひ岡本
其外の会を引うけたり。

十六日。くもれり。

十七日。晴。こよひ頼母師の会也。尾崎と宮城との引受也。こん年
のくれなハ長屋の文蔵とれり。

十八日。雨。ことなることなし。

十九日。雨。

廿日。ことなることなし。

廿一日。雨雪。くるゝ比岩淵より忠蔵来れり。父君のミやまひよく
もあらねバ来るべきよし也。こよひ大黒屋に招かれたれば、まづかし
こにまかりて、夜ふけたるにより外へゆかず。

廿二日。雪ふる。朝とく坪井・赤川などにあからさまに田舎にまか
りて帰るべきよし申て、駕にて出たてり。巳過るほど也しかバ、佐々
並につきしハすでにくれんとするころなりき。この大雪にてハよる一
坂こえがたかるべし、まげてとまりて朝とく出たち給へと、駅の長い
ふ。しかるべしとて藤八がもとにやどりぬ。

廿三日。うし三つの比より出たちぬ。雪いミじうふる。巳の時ばか
りに山口につきぬ。こゝにて駕よりおりて、駕をバ佐甲久香がもとに

あづけおきて、忠蔵をバ氷上の布施にのこし、おのれひとりまたくれ
ぬうちにかへれり。父君いたくよろこび給へり。ミかほなど見まぬら
するに、いミじうやせおとろへ給へり。とてもながらへ給ふまじけ
しき也。されどこよひは、おのれに逢給へるがうれしきにや、菓子・
かまぼこやうのものいさゝかばかりたうべ給へり。ミづからもこよひ
ハいとこゝちよしとの給へり。

廿四日。晴。けふハ父君のミけしき例よりもわろし。ものふつにた
べ給はず。午時ばかりニ上田氏にゆきて、日のいらんとするころにか
へりぬ。

廿五日。晴。年のくれのいそぎ多ければ、萩の事も心にかゝりて、
御かたはらにさぶらふこともなりがたく、明はてぬうちに新吉といふ
つぶねをつれて出たちぬ。小鯖の宮のわたりにあけぬ。日の出るほど
に山口につきて、佐甲がもとにて朝のかれひたうべて、またこゝより
籠にてその夜戌ばかりに家にかへりつきぬ。一升谷より雪ミぞれにな
れり。

廿六日。晴。湯などわかさせて、旅のくたびれを補ひぬ。かまぼこ
ふたつ長屋よりおくるべくいへるをもて、山口屋に出しおきぬ。田舎
のたよりにおくらんとて也。

廿七日。晴。ことなることなし。宍戸孫四郎殿より袴地袴反おくら
る。広しまの一件につきて也。

廿八日。晴。

廿九日。晴。

〔扉〕

付紙

十ノ次一 〔割書〕〔自弘化四年一月一日 至同年十二月末日〕 在国

丁未備忘

弘化四

寄居子庵

《吉田祥朔氏注記》

一、コノ冊子ハ、特ニ朱線ノ罫紙ヲ用ヒラレタルガ、コノ様式ノ刷紙ハ当時坊間ニモ発行シタルニヤ。ソハ、コノ冊ノ紙面、縦六寸五分、横五寸程ニテ、表裏共ニ各十行ニ画シ、更ニコレヲ上下二三区分シ、スベテ一紙面ヲ一ヶ月ニ充當シタレバ、総紙數ハ六枚ナリ。随ツテソノ記事ハ簡短ヲ旨トシ、概ネ事件ノ題目ヲ記スルニ止メラレタリ。

一、本冊開卷ニ左ノ記号アリ。
日 晴 雨 雨
□ 上局 ● 夜

《以下、一日一行の形式に改めて本文を記載する》

《弘化四年一月》《頭欄》〔正大〕

- 一。時々雨。御目見并ニ廻礼。
- 二。日。四方カスム。今日内居。
- 三。日。廻礼少々。午後帰在。
- 四。日。
- 五。日。
- 六。日。朝雪。
- 七。日。
- 八。日。
- 九。日。
- 十《頭欄》〔〇〕。日。日没父君卒去。
- 十一。日。
- 十二。日。父君葬礼。

十三。日。初度法事。

十四。日。帰府。

十五。日。地震。

十六。日。父君一七日。

十七。日。曇、風雪。

十八。日。曇不定、雪降。

十九。日。風雪。

廿。日。

廿一。日。夕小雨。

廿二。日。

廿三。日。風。二七日。

廿四。日。夜更雨。

廿五。日。

廿六。日。風寒。

廿七。日。雪。上臆、病氣ニテ不出。

廿八。日。

廿九。日。

卅。日。三七日。

《弘化四年二月》《頭欄》〔三小〕

- 一。雨後晴。
- 二。日。
- 三。日。夜雨。
- 四。雨。
- 五。夕雨。七川。
- 六。日。
- 七。日。四七日。
- 八。雨。
- 九。雨。●小田。

- 十。日。古今。
 - 十一。日。白根。
 - 十二。夕雨。福原相組会。
 - 十三。日。シズマ。
 - 十四。日。三十五日。
 - 十五。日。マツ本。
 - 十六。雨。
 - 十七。雨。
 - 十八。雨。
 - 十九。日。
 - 廿。雨。
 - 廿一。雨。六七日。クハ原。
 - 廿二。日。
 - 廿三。雨。
 - 廿四。雨。
 - 廿五。日。
 - 廿六。日。在郷行。
 - 廿七。日。
 - 廿八。日。四十九日。
 - 廿九。日。帰府。
- 〈弘化四年三月〉〈頭欄〉〔三 大〕
- 一。日。
 - 二。日。御発駕。
 - 三。日。
 - 四。夕雨。
 - 五。日。夜雨。中村直三郎会。
 - 六。曇。
 - 七。時々雨。

- 八。雨。
 - 九。日。
 - 十。日。マス田。
 - 十一。雨。中村半左エ門。
 - 十二。雨。
 - 十三。日。四本松。
 - 十四。日。マスダ。
 - 十五。マシノ。
 - 十六。●ヤマネ。
 - 十七。アハヤ。
 - 十八。
 - 十九。
 - 廿。マス田。上野。赤川。
 - 廿一。セ川。
 - 廿二。シズマ。
 - 廿三。四本松。
 - 廿四。
 - 廿五。小田。
 - 廿六。
 - 廿七。
 - 廿八。シズマ。
 - 廿九。セノウ。
 - 卅。マスダ。セノウ。
- 〈弘化四年四月〉〈頭欄〉〔四 小〕
- 一。小田。
 - 二。●高ハシ。
 - 三。
 - 四。シズマ。

- 五。ミワ。
- 六。
- 七。
- 八。シズマ。令。
- 九。
- 十。マスダ。
- 十一。ツバキ。
- 十二。
- 十三。四本松。
- 十四。
- 十五。
- 十六。●ヲザキ。
- 十七。ススダ。
- 十八。
- 十九。
- 廿。百ケ日。
- 廿一。近藤。
- 廿二。
- 廿三。四本松。マスダ。
- 廿四。集ケ。
- 廿五。片山。
- 廿六。
- 廿七。ウメダ。
- 廿八。
- 廿九。イサハヤ。

〔弘化四年五月〕〔頭欄〕〔五 少〕

- 一。松岡。
- 二。

- 三。
- 四。
- 五。
- 六。
- 七。
- 八。
- 九。
- 十。
- 十一。
- 十二。
- 十三。
- 十四。井ゼキ。
- 十五。
- 十六。大玉。
- 十七。
- 十八。
- 十九。
- 廿。
- 廿一。
- 廿二。
- 廿三。
- 廿四。
- 廿五。
- 廿六。
- 廿七。
- 廿八。
- 廿九。

〔弘化四年六月〕〔頭欄〕〔六 大〕

- 一。
- 二。
- 三。
- 四。セノフ。
- 五。セ川。
- 六。
- 七。マスダ。
- 八。
- 九。
- 十。横山。
- 十一。
- 十二。羽仁。
- 十三。四本松。
- 十四。セノウ。
- 十五。アイ川。
- 十六。
- 十七。
- 十八。
- 十九。
- 廿。マスダ。
- 廿一。
- 廿二。
- 廿三。四本松。
- 廿四。
- 廿五。
- 廿六。
- 廿七。
- 廿八。
- 廿九。

- 卅。
- 一。
- 二。
- 三。
- 四。
- 五。
- 六。
- 七。
- 八。
- 九。
- 十。
- 十一。
- 十二。
- 十三。
- 十四。
- 十五。
- 十六。
- 十七。
- 十八。
- 十九。
- 廿。
- 廿一。
- 廿二。
- 廿三。
- 廿四。
- 廿五。
- 廿六。

〔弘化四年七月〕〔頭欄〕〔七 大〕

廿七。
廿八。
廿九。
卅。

〔弘化四年八月〕〔頭欄〕〔八 小〕

一。
二。
三。
四。
五。
六。
七。
八。
九。
十。
十一。
十二。
十三。
十四。
十五。
十六。大玉。
十七。
十八。●ミヤギ。
十九。
廿。マスダ。
廿一。
廿二。●茶会。
廿三。四本松。

廿四。瀬能。
廿五。
廿六。
廿七。
廿八。内。
廿九。マスダ。

〔弘化四年九月〕〔頭欄〕〔九 大〕

一。マシノ。
二。
三。
四。
五。セ川。
六。
七。
八。内会。
九。
十。ススダ。
十一。●莊原。
十二。
十三。ヨコ山。タカハシ。
十四。
十五。小野。西ムラ。
十六。
十七。
十八。
十九。米屋丁。
廿。
廿一。白根。

- 廿二。
- 廿三。
- 廿四。マスダ。大玉。
- 廿五。白根。
- 廿六。
- 廿七。
- 廿八。
- 廿九。大玉。
- 卅。

〔弘化四年十月〕

- 一。
- 二。
- 三。
- 四。セノウ。
- 五。マツヲカ。
- 六。
- 七。
- 八。
- 九。ヨコ山。
- 十。
- 十一。●シツマ。
- 十二。ユザ。
- 十三。四本松。
- 十四。
- 十五。
- 十六。
- 十七。●シツマ。
- 十八。

- 十九。内ニテ、ミヤギ。
- 廿。マスダ。大玉。
- 廿一。
- 廿二。
- 廿三。
- 廿四。
- 廿五。●シツマ。
- 廿六。
- 廿七。
- 廿八。
- 廿九。
- 卅。

〔弘化四年十一月〕〔頭欄〕〔十一〕

- 一。
- 二。
- 三。四本松。●アタラシヤ。
- 四。
- 五。マツヲカ。●シツマ。
- 六。
- 七。
- 八。
- 九。
- 十。
- 十一。
- 十二。冷泉。
- 十三。
- 十四。セノウ。
- 十五。●小林。

- 十六。 大玉。
- 十七。 ●大道。
- 十八。 大玉。
- 十九。 大玉。
- 廿。
- 廿一。
- 廿二。
- 廿三。 大玉。
- 廿四。 ノト殿。
- 廿五。
- 廿六。
- 廿七。
- 廿八。
- 廿九。 大玉。
- 一。 ●シツマ。
- 二。 ●小林。
- 三。
- 四。 セノウ。
- 五。 マスダ。
- 六。 ●頼母子。
- 七。
- 八。
- 九。 セノウ。
- 十。
- 十一。 益田。
- 十二。 フク原。
- 十三。

〔弘化四年十二月〕〔頭欄〕〔十二 大〕

- 十四。 大玉。
- 十五。
- 十六。 大玉。 ●吉田吉五郎。
- 十七。
- 十八。
- 十九。 大玉。 ●藏田頼母子。
- 廿。
- 廿一。
- 廿二。
- 廿三。
- 廿四。 内。
- 廿五。
- 廿六。
- 廿七。
- 廿八。
- 廿九。
- 卅。

〔以上 第五冊〕

〔第六冊 表紙〕

近藤芳樹日記〔割書〕〔辛亥備忘 西遊雜記 西遊漫録〕 六

〔扉〕

表紙

辛亥嘉永四

辛亥備忘

(表題磨滅、僅認辛備二字)

一、コノ冊ハ横冊ニテ、凡ソ上下二寸四分、左右五寸五分程ノ極メテ小冊子ナリ。サキノ弘化四年ノ冊ト同ジク野ヲ用ヒラレタルガ、コノ方ハ黒線ニテ、且ツ各紙半面ヲ十五ニ、表裏并セテ三十二画シ、即チ一枚ヲ一ヶ月ニ充当セリ。マタ各欄ノ日子ハ予メ印刷シタルモノナリ。

〔本文〕

嘉永四年辛亥

正月 大(嘉永四年)

一日。所勞。平賀、二百石ニ御取立、梨羽直衛悴跡継之。

二日。尾崎善左エ門、自大阪帰。

三日。夜雪。寒氣強。

四日。雪。大玉。撰集抄校合。

五日。

六日。●ムラタ。

七日。夕雨。

八日。朝雨霽、風烈。夜中ヤム。大玉。

九日。●アフカ。

十日。御目見廻礼。松田嶺丸来。

十一日。●ムラタ。

十二日。相組合。セノウ。●

十三日。夜雨。●アリマヤ。

十四日。夕雨。●小田。

十五日。雨。●小林。

十六日。雨。●大田。

十七日。雨。館中。●ヨシヲカ。

十八日。館中。啓蒙。●孟子。

十九日。

廿日(頭欄)(○)。夜雨。初於御対面講孟子万章下仕不為貧之章。

廿一日。ゴトウ。

廿二日。館中。●ナカムラ。

廿三日。館中。堅田。

廿四日。黒書院講書経。●ムラタ。

廿五日。啓蒙。

廿六日。セノウ。

廿七日。館中。●ムラタ。

廿八日。館中。●孟子。

廿九日。雨。祖式。

卅日。雨。

〔嘉永四年二月〕

一日。●ムラタ。

二日。

三日(頭欄)(○)。於明倫館能登殿申渡サル、コトハ、余ヲ講師ニ

仰付ラル、ト也。御請シテ兩日ニ御礼マハリラスマス。〔兩日〕以下

は四日の行に記載

四日。雪。●桑原。

五日。雨雪。

六日。大雨。●アリマヤ。

七日。時々雨。●ゴトウ。

八日。●井上与市。

九日。小雨。

十日。夜雨。易。御手廻組入。

十一日。雨。長沢へウタ、花瓶一、萩原へ神代考、香合、秋田ヤへ
風月集秋冬、及香合ヲオクル。

十二日。雨。館中講尺。

十三日。

十四日。夜雨。館中講談。

十五日。今夜月明。玉江光山寺。

十六日。夕風雨。館中講談。

十七日。

十八日。実母廿五年忌。香典銀五十目、尾崎便ニ送ル。●孟子。

十九日。館中講談。●平田。

廿日。雨。易。●松岡。

廿一日。雨。

廿二日。雨。●山田。

廿三日。晴。講尺、自堯之時至農夫也。●孟子。

廿四日。晴。館中。司馬温公曰冠者成人之礼。

廿五日。

廿六日。雨。赤川。●タカハシ。

廿七日。雨。

廿八日。●孟子。

廿九日。雨風。

卅日。与静岡歩行。

三月 小（嘉永四年）

一日。

二日。雨。

三日。

四日。

五日。御発駕。

六日。雨。青バセ。

七日。

八日。景春曰公孫衍一章。●孟子。

九日。隋煬帝為太子。シズマ。

十日。曇。易。岡田。

十一日。風。夜雨。詩經。●ヲザキ。

十二日。雨風。南方。井ゼキ。●フセ。

十三日。曇。●孟子。

十四日。雨。

十五日。曇。中村宇兵衛講師会。

十六日。公父文伯退朝。●山根。

十七日。大玉。

十八日。小雨。●孟子。

十九日。雨。啓蒙。

廿日。雨。易。井ゼキ。近思録。萩原。

廿一日。

廿二日。雨。玉江行。●小田。

廿三日。孟子謂戴勝曰一章。●孟子。

廿四日。夕雨。当官処事、但務着実。

廿五日。雨。

廿六日。雨、夕晴。藤井。

廿七日。●シズマ。

廿八日。

廿九日。井上。

四月 大（嘉永四年）

一日。椿。論語。

二日。

三日。自聖王不作去聖人之徒。在郷。行山口佐甲宿。

四日。雨。山口ニ止ル。松田宿。

五日。大道行。上田宿。
 六日。夜雨。大道。上田宿。
 七日。雨、午後晴。宮市。上田宿。
 八日。三田ジリ。ワタヤ宿。
 九日。宮市小倉ニテ集会。肥前佐賀、大鹿ニアフ。山口ニ帰ル。
 十日。曇。山口松田滞留。今日於松田歌会。
 十一日。山口出立。松田同伴。
 十二日。片山。
 十三日。孟子曰規矩一章。
 十四日。横渠先生曰今之朋市。
 十五日。●志道。
 十六日。衛侯在楚北宮文子見令尹之。
 十七日。
 十八日。●孟子。
 十九日。マシ野。●シズマ。
 廿日。易。大玉。
 廿一日。風、夕雨。職原。●マツムラ。
 廿二日。
 廿三日。孟子曰不者一章。ケイモウ。●孟子。
 廿四日。
 廿五日。●桑原。
 廿六日。雨。●内山カタ。
 廿七日。朝雨。フクダ。近藤。
 廿八日。シズマ。論語。●孟子。
 廿九日。明倫館。●川ソヘ。
 卅日。松ムラ。
 五月 小 (嘉永四年)
 一日。

二日。雨。玉江。山田。●諸師会。岡田。
 三日。曇。孟子曰伯夷辟紂一章。近思錄。●孟子。
 四日。
 五日。
 六日。
 七日。シズマ。●孟子。
 八日。
 九日。雨。●井ゼキ。
 十日。小雨。易。●滝。
 十一日。小雨。
 十二日。小雨。安本。
 十三日。雨。公孫丑曰君子一章。●孟子。
 十四日。明道曰聖賢千言万語。
 十五日。青バセ阿曾沼行。●小寺。
 十六日。曇。講談。椿。論語。林。論語。
 十七日。
 十八日。●孟子。
 十九日。今日部屋ノ屋根ヲ直ス。左官日雇三人。●小田。
 廿日。後藤。
 廿一日。周布。孟子。
 廿二日。近思錄。岡田。
 廿三日。曇。孟子曰仁者実以下二章。椿。ロンゴ。
 廿四日。館中出勤。
 廿五日。フキ。栗屋新。
 廿六日。中尾。論語。
 廿七日。夕小雨。今曉中村百合 (傍記) (カ) (文カトモ) 藏
 廿八日。雨。
 近藤。

廿九日。雨。講談。

六月 小（嘉永四年）

- 一日。易。林。孟子。
二日。祖式。●井関。
三日。雨。養生者以下四章。中村文蔵法事。
四日。論語。
五日。曇。ツバキ。論語。
六日。曇。ヤナ井。●椿歌会。
七日。雨。館中。祖式。
八日。雨。館中。
九日。館中。開作。井上。
十日。小倉講師会。
十一日。雨少々。井原。孟子。
十二日。ユザ。
十三日。雨。館中。可以取以下二章。●孟子。
十四日。館中講談。
十五日。椿。論語。
十六日。敬身堂。●中ムラ。
十七日。今日三田尻ニテ半平死去。
十八日。半平病氣ニ付三田尻罷出度願出。
十九日。出立。途中ニテ、半平昨日死ノ到来アリシ由ヲ、館中本ジメト支配トヘ申送ル。●山口ニ宿ル。半平、実ハ十七日ニ死スルヲ十九日ト上ヘハ申出タリ。曾祖父ニアタル。廿日ノ忌日也。
廿日。夕方、三田尻綿屋マデ着。
廿一日。雨。柏木方ヲ訪フ。半平ノ靈ヲ祭ル。
廿二日。雨。三田尻ニアリ。
廿三日。晴、雨。三田尻ニアリ。
廿四日。雨。右田・舟橋ヲ引キ大島。舟ワタシ止ル。

廿五日。雨。室田秀雄ヲ率テ泥江ヲワタリ、大道ニ至ル。源五郎嫁病氣。

廿六日。雨、午後晴。山口マデカヘル。松田ニヤドル。
廿七日。雨。松田ヨリ雨祈禱。此比肥前人大鹿、松田滞留。
廿八日。端坊ニ於テ一会。佐甲ヲ率テ到ル。
廿九日。佐甲ニテ一会。夜九ツ半時出立、帰萩。夏木原ノ下ノ方ニテ夜明ク。

（頭欄）（〇七月缺）

八月 小（嘉永四年）

- 一日。山口。
二日。端坊ニテ源氏会。
三日。大道ニ行。佐甲同伴。道々小雨。
四日。風。大道ニ居ス。
五日。風。早朝三田尻ニ行ク。
六日。風。今朝宮市上田屋ニ行、病婦ヲ訪フ。二百十日風穩也。
七日。雨。
八日。
九日。宮市藤井ニテ生松園記ヲカキ、上田屋ニテ光美ト談、山口松田マデカヘル。
十日。山口松田滞留。孟子・源氏等ヲ講ズ。
十一日。払曉出立、佐々並マデ乗輿、帰宿。今夜小雨。
十二日。曇。飯田。孟子。
十三日。アイ川。河内ヤ。
十四日。
十五日。朝小雨、夕曇。玉江観音院ニテ賞月。
十六日。ナラサキ。近思。●後藤。
十七日。

十八日。
 十九日。微風。●小田。
 廿日。
 廿一日。雨。粟屋。孟子。●中原。
 廿二日。雨。士之不託諸侯一為不恭。片山。
 廿三日。雨。カツラ。
 廿四日。雨。●ムラタ。
 廿五日。雨。夜晴。●普喜。中庸。
 廿六日。曇。夕ヨリ雨。近思。トクラ。●源氏。
 廿七日。雨。ツバキ。論語。山ネ。
 廿八日。ツバキ。古今。●孟子。
 廿九日。館中。

九月 大(嘉永四年)

一日。周布。孟子。
 二日。雨。館中。一郷善士二章。
 三日。館中。
 四日。●小田。
 五日。
 六日。シズマ。●ナカムラ。
 七日。風。館中。石川。事斯語。
 八日。風。館中。●孟子。
 九日。晴曇不定。
 十日。●ムラタ。
 十一日。曇。林。孟子。●宍戸。
 十二日。雨。アイ川。近思。牛山之木一章。福原。
 十三日。ナシハ。夜。於曾祢亭觀月。
 十四日。月明。●大玉。
 十五日(頭欄)(○)。月明。周南先生百年忌案内。●椿。火事。

十六日。曇。●シラ井。
 十七日。講尺。渡口。林。孟子。
 十八日。講尺。
 十九日。雨。御帰城。
 廿日。●ムラタ。
 廿一日。井原。孟子。
 廿二日。御目見ニ付館中止。●有丸。
 廿三日。御目見ニ付館中止。
 廿四日。曇。寒。館中。
 廿五日。中庸。
 廿六日。事斯語。三戸。●高ハシ。
 廿七日。雨。仁人心一章。
 廿八日。館中。●片山。
 廿九日。●静間。本居忌日会。
 卅日。易。

十月 小(嘉永四年)

一日。夕小雨。小笠原。孟子。
 二日。小雨。館中。事斯語。増野。
 三日。小雨。館中。
 四日。曇。●ロンゴ。
 五日。
 六日。曇。風。
 七日。事斯語。●ムラタ。
 八日。仁之勝不仁也以下三章。●孟子。
 九日。●大賀。
 十日。易。●中村伊介。
 十一日。中村。孟子。●佐々木。
 十二日。高洲。●佐々木。ニゴリブチ。

- 十三日。●孟子。
 - 十四日。●ロンゴ。
 - 十五日。夜小雨。
 - 十六日。ツバキ。孟子・論語。
 - 十七日。事斯語。●アリマヤ。
 - 十八日。孟子。藤井。●孟子。
 - 十九日。講談。
 - 廿日。●山根。
 - 廿一日。夜小雨。飯田。孟子。●シツマ。
 - 廿二日。館中。
 - 廿三日。館中。中村宇兵衛母死。●孟子。
 - 廿四日。黒書院講筵（講）引。●論語。
 - 廿五日。講師会。山根。
 - 廿六日。
 - 廿七日。夜雨。館中。福原。
 - 廿八日。館中。
 - 廿九日。館中。
- 十一月 大（嘉永四年）
- 一日。周布。●アリマヤ。
 - 二日。館中。●永安。
 - 三日。曇。館中。●孟子。
 - 四日。曇。黒書院論語学而一章。●ロンゴ。
 - 五日。曇。●ゴトウ。
 - 六日。
 - 七日。曇。福原。
 - 八日。魯欲使慎子為將軍一章。
 - 九日。夜小雨。講談。フク田。
 - 十日。曇。

- 十一日。ハヤシ。
- 十二日。館中。
- 十三日。館中。
- 十四日。今日ヨリ黒書院講之事ニ付遠慮。●論語。
- 十五日。終日閑居、玩易。
- 十六日。今日遠慮御免。ヤナ井。●セノウ。
- 十七日。風寒。●ムラタ。
- 十八日。孟子曰舜発於畎畝之中二章。●蔵田タノモシ。夜雨風。
- 十九日。風。講師会引受。
- 廿日。
- 廿一日。曇。井原。孟子。●大玉。
- 廿二日。午後雨雪。●河内ヤ。
- 廿三日。岩国屋敷。長谷川。
- 廿四日。館中。晋威寧中一章。●内歌会。
- 廿五日。御前講。孟子。
- 廿六日。敬身堂。天有人民一章。
- 廿七日。夜雪。福原。●岩国邸。
- 廿八日。曇。孟子曰古之聖王二章。●孟子。
- 廿九日。
- 卅日。寺内。●児玉。

（以下、十一月の末尾付近に挿入された紙片の記載）

〔割書〕〔嘉永四〕十月廿六日

敬身堂出入人数附立

講談講師 近藤晋一郎

足軽以下 八拾四人

百姓町人 式拾壹人

右二廉合 百五人

（以上）

十二月 小 (嘉永四年)

- 一日。
二日。曇。山ガタ。●ゴトウ。
三日。夜小雨。児玉。●孟子。
四日。夜雨。●岩国。
五日。雨。●スギ。
六日。敬身堂。ヤマト。
七日。福原。
八日。曇。●竹内。
九日。時々雨。明倫館。●又藏方。
十日。夜雪。●光山寺。
十一日。雪。大多和。孟子。●竹内。
十二日。曇。孟子曰人之一章。●イハクニ。
十三日。●吉岡。
十四日。
十五日。●
十六日。雪。
十七日。雪。
十八日。
十九日。朝雨、夕雪。●岡本。儀礼。
廿日。雪。モチツキ。●吉松。
廿一日。小笠原。
廿二日。頼母子。●
廿三日。夜雪。
廿四日。曇。
廿五日。
廿六日。
廿七日。雪。
廿八日。

廿九日。

〈未完〉